

日本版主観的認知機能低下尺度（SCD-J）の妥当性の検討

—客観的認知機能指標との関連—

前田 紗彩（京都女子大学 大学院発達教育学研究科, s-maeda@koto.kpu-m.ac.jp）

成本 迅（京都府立医科大学 大学院医学研究科, jnaru@koto.kpu-m.ac.jp）

八田 武俊（京都女子大学 心理共生学部, hattata@kyoto-wu.ac.jp）

八田 武志（関西福祉科学大学 健康福祉学部, hatta@tamateyama.ac.jp）

岩原 昭彦（京都女子大学 心理共生学部, iwahara@kyoto-wu.ac.jp）

Validity of the Japanese version of the Subjective Cognitive Decline Scale (SCD-J):

Associations with objective cognitive function measures

Saaya Maeda (Graduate School of Development and Education, Kyoto Women's University, Japan)

Jin Narimoto (Graduate School of Medical Science, Kyoto Prefectural University of Medicine, Japan)

Taketoshi Hatta (Faculty of Psychology for Well-being, Kyoto Women's University, Japan)

Takeshi Hatta (Department of Health Sciences, Kansai University of Welfare Sciences, Japan)

Akihiko Iwahara (Faculty of Psychology for Well-being, Kyoto Women's University, Japan)

Abstract

The purpose of this study was to examine the relationship between cognitive indices and the SCD-J (Subjective Cognitive Decline Scale-Japanese version), a subjective cognitive decline scale developed for elderly Japanese individuals, in order to verify its validity. Correlation analysis was performed between SCD-J scores and cognitive index scores in 370 participants in community health checkups who took both the SCD-J and cognitive function tests. The analysis was performed separately for each age group: overall, middle-aged, early elderly, and late elderly. The correlation analysis showed SCD-J scores were not significantly associated with memory or language indices in the elderly group. In contrast, weak but significant negative correlations were observed between SCD-J scores and attention/executive function indices in the middle-aged group. No significant correlation was found in the elderly group. These findings are consistent with the conceptualization of SCD as a subjective complaint that may precede clear objective cognitive decline, and provide preliminary support for the construct validity of the SCD-J.

Key words

subjective cognitive decline, SCD-J validity, cognitive function, middle-aged and older adults

1. 背景と目的

近年、認知症の前駆段階として、神経心理学的検査では明確な低下が認められないにもかかわらず、本人が認知機能の低下を訴える高齢者の主観的認知機能低下（Subjective Cognitive Decline: SCD）が注目されてきた。縦断研究において、SCDは軽度認知障害（Mild Cognitive Impairment: MCI）や認知症への移行リスクが報告されており、臨床的な早期指標としての有用性が示唆されている（Liew, 2020; Wang, Wang et al., 2021）。

これまでSCDを評価するために諸外国では様々な尺度が用いられているが（Jessen et al., 2020）、本邦の高齢者を対象とする標準化された尺度は開発されていなかった。そこで、著者らは日本人高齢者を対象とした主観的認知機能低下尺度（SCD-J）を開発し（前田他, 2026）、因子構造、信頼性と妥当性の検討を行った。なお、尺度の回答は直近2年の自身の変化を振り返り、「全くそう思わない:1点」～「とてもそう思う:4点」とする4件法で換算するものとなっている。SCD-Jは、「語想起と記憶力の低下」に関

する7項目、「出来事の記憶と時間感覚の低下」に関する7項目からなる、計14項目2因子構造の尺度となり、信頼性および基準関連妥当性も高いことが確認されている。なお、SCD-J開発時サンプルにおける各得点の記述統計値を付録に示す。

開発したSCD-Jの実用性を高めるためには、尺度の諸特性を明らかにすることが望ましく、客観指標との関連を明らかにする必要がある。横断研究では、SCDを有する高齢者は健常高齢者と比較して、エピソード記憶や語想起、実行機能などにおいてわずかな成績低下を示す可能性が報告されている（Morrison & Oliver, 2023; Wang, Rao et al., 2021）一方で、Zhou et al. (2025) のシステマティックレビューでは、縦断的検討では認知機能全体および記憶力の低下と関連するが、このことは横断的研究では一貫性の乏しさが指摘されている。

元来、SCD尺度は、神経心理学的検査では明確な認知機能低下が認められない段階において、主観的な認知機能低下を自覚する対象者を識別することを目的として開発された尺度である。そのため、新たに開発したSCD-J尺度と客観的認知指標との関連性を検討することは、SCD-Jの構成概念妥当性および臨床的有用性を検証するうえで重要である。そこで、本研究では、我々が開発し

表 2 : SCD-J の各得点と認知機能との相関係数

全体	SCD-J ①	SCD-J ②	SCD-J 合計
論理的記憶	-.005	-.089	-.048
流暢性 (文字)	-.062	-.107*	-.090
流暢性 (カテゴリー)	-.063	-.080	-.077
D-CAT1	-.098	-.152**	-.134*
D-CAT3	-.103*	-.155**	-.138**
中年	SCD-J ①	SCD-J ②	SCD-J 合計
論理的記憶	-.102	-.150	-.132
流暢性 (文字)	-.299**	-.275**	-.308**
流暢性 (カテゴリー)	-.063	-.046	-.059
D-CAT1	-.207*	-.232*	-.233*
D-CAT3	-.217*	-.254*	-.250*
前期高齢者	SCD-J ①	SCD-J ②	SCD-J 合計
論理的記憶	.114	-.036	.048
流暢性 (文字)	.127	-.008	.070
流暢性 (カテゴリー)	.040	.029	.038
D-CAT1	.095	-.060	.025
D-CAT3	.096	-.049	.031
後期高齢者	SCD-J ①	SCD-J ②	SCD-J 合計
論理的記憶	-.006	-.067	-.038
流暢性 (文字)	-.046	-.044	-.050
流暢性 (カテゴリー)	-.073	-.121	-.106
D-CAT1	-.092	-.049	-.080
D-CAT3	-.084	-.051	-.076

注 : * $p < .05$, ** $p < .01$, *** $p < .001$.

= -.250 ($p = .016$) であった。一方、前期高齢者と後期高齢者では上記の関連は認められなかった。また、記憶指標は、全ての年代において有意な相関を認めなかった。

4. 考察

本研究は、SCD-J と認知機能指標との関連を検討することを目的とした。今回、前期高齢者および後期高齢者において、SCD-J の各得点は記憶や言語の指標とは相関を認めなかった。この結果は、神経心理学検査の低下に先行して生じるとされる SCD の概念定義や、横断的には認知指標との関連が一貫しないという先行研究の知見と整合的である。SCD-J は記憶力や言語機能の変化について問う項目も多く含んでいることから、高齢者において、本尺度で報告される訴えは、客観的な指標では捉えることが難しい初期段階の主観的な機能の低下を反映している可能性がある。したがって、本研究の結果は、SCD-J が主観的認知機能低下を測定する尺度として一定の妥当性を有する可能性を支持するものと考えられる。ただし、本研究は横断的検討であるため、SCD-J が将来的な認知機能低下の前駆段階をどの程度反映しているかについては、今後の縦断的検討が必要である。

年齢群ごとの検討では、中年群は SCD-J 得点と文字流暢性および D-CAT に有意な弱い相関を認めている。

D-CAT1 は注意機能、文字流暢性および D-CAT3 は実行機能の評価指標であり、すなわち、中年期は注意機能や実行機能の低下が認知機能の変化として自覚されやすい可能性がある。その背景には仕事や家庭の運営を担う世代的な役割の中で、日常生活における遂行上の困難を自覚しやすいことが考えられる。実際に、この知見と一致する傾向は複数の研究が指摘している。例えば中年期女性 (44 ~ 62 歳、平均 53.0 歳) を対象にした Drogos et al. (2013) では、主観的な記憶の低下が、負の感情や言語性記憶だけでなく、注意・ワーキングメモリの低さとも関連したと報告されている。Webster-Cordero and Giménez-Llort (2022) は、主観的な認知機能低下に対する不満について、中年期 (年齢平均が 60 歳代前半) を含めたシステマティックレビューを行い、中高年期の主観的な認知機能低下に対する不満は、注意・実行機能指標の低下と密接に関連することが結論づけられている。したがって、本研究の結果は先行研究と矛盾しない。

さらに、これらの研究では、中高年期の注意・実行機能の低下を伴う主観的な機能低下の訴えは、認知症前段階にみられるバイオマーカーや脳の容積減少といった神経生物学的リスクとの関連が報告されている。つまり、特に中年期の対象者において、SCD-J と注意・実行機能を測定するバッテリーを組み合わせることは、主観的訴えと客観的認知機能の初期的な関連を把握するうえで有用である可能性がある。ただし、本研究は横断研究であり、将来的な認知機能低下の予測可能性については、縦断的検討が必要である。

一方で、今回高齢群では、中年群で認めた注意・実行機能との関連が認められなかった。すなわち、中年期と高齢期では主観的な認知機能低下につながる背景要因が異なる可能性が示唆される。その背景の一つとして、高齢期には身体機能の変化から全般的な動作が緩慢になりやすく、注意・実行機能の低下に伴う日常的動作への支障も、加齢に伴う自然な変化として比較的了解的に捉えられやすい可能性が考えられる。さらに、Fastame (2022) が指摘するように、高齢期における主観的な認知機能低下への不満は、実行機能の客観的な評価とは関連が認められない一方で、抑うつ症状の強まり、楽観性、心理的ウェルビーイングの低下となど、メンタルヘルスとの関連が強い可能性がある。SCD の概念的な枠組みをまとめている SCD-I (Subjective Cognitive Decline Initiative) では、進行リスクの高い SCD を指す SCD plus の特徴として「心配を伴うこと」「持続性がある」「情報提供者による確証がある」などを挙げている (Jessen et al., 2020)。すなわち、高齢期の SCD は、その時点の認知機能の水準と対応して現れるというよりも、将来のリスクや心理社会的な背景因を含む複合的な訴えである可能性が考えられ、この仮説については今後の検討が必要である。

以上を踏まえると、高齢期においては SCD の訴えが強い個人には、認知機能に対するアプローチだけでなく、心理社会的な側面も含めた包括的な評価を同時に行い、介入していく支援が大切かもしれない。実際に、SCD 者

におけるポジティブ感情などの心理的特性が、客観的な認知機能や抑うつ症状とは独立して、日常生活の機能的な能力（ADL）の高さと関連する可能性や（Fox et al., 2026）、SCD 者へのマインドフルネスおよびセルフコンパッションによる介入が身体活動を増加させたという報告もあり（Marchant et al., 2023）、今後は SCD-J と心理社会指標との関連についてもさらに検討を進めることが望まれる。

加えて、本研究では S-MMSE により認知症が疑われる対象者はいなかったことを確認したが、論理的記憶検査では一部に MCI 相当の記憶低下を示す可能性のある対象者が含まれていた。そのため、今後は臨床診断に基づいて健常高齢者、MCI、認知症を明確に分類したうえで、SCD-J と客観的認知機能との関連を検討する必要がある。

引用文献

- Drogos, L. L., Rubin, L. H., Geller, S. E., Banuvar, S., Shulman, L. P., & Maki, P. M. (2013). Objective cognitive performance is related to subjective memory complaints in midlife women with moderate to severe vasomotor symptoms. *Menopause*, 20 (12), pp. 1236-1242.
- Fastame, M. C. (2022). Are subjective cognitive complaints associated with executive functions and mental health of older adults? *Cognitive Processing*, 23, pp. 503-512.
- Fox, J. M., Harvey, D. J., Pons, C. N., Chen, Y., Rahman, S., Ryan, M. J., Randhawa, J., Weakley, A. M., Chan, M. L., Schmitter-Edgecombe, M., & Farias, S. T. (2026). Psychological characteristics and functional abilities in older adults with subjective cognitive complaints: A potential new target for early intervention. *International Psychogeriatrics*, 38 (1), 100066.
- 八田武志・伊藤恵美・堀田千絵・岩原昭彦・永原直子・八木昭宏（2006）．高齢者の認知発達における情報処理速度と実行系機能について—八雲研究縦断データによる検討報告—．*人間環境学研究*, 4 (1), pp. 15-20.
- Hatta, T., Yoshizaki, K., Ito, Y., Mase, M., & Kabasawa, H. (2012). Reliability and validity of the digit cancellation test: A brief screen of attention. *Psychologia*, 55 (4), pp. 246-256.
- Hibino, S., Mase, M., Shirataki, T., Nagano, Y., Fukagawa, K., Abe, A.,... Kabasawa, H. (2013). Oxyhemoglobin changes during cognitive rehabilitation of the traumatic brain injury using near Infrared Spectroscopy. *Neurologia Medico-Chirurgica*, 53 (5), pp. 299-303.
- 伊藤恵美・八田武志・伊藤保弘・木暮照正・渡辺はま（2004）．健常成人の言語流暢性検査の結果について—生成語数と年齢・教育歴・性別の影響—．*神経心理学*, 20, pp. 254-263.
- Jessen, F., Amariglio, R. E., Buckley, R., Flier, W. M., Han, Y., Molinuevo, J. L.,... Wagner, M. (2020). The characterisation of subjective cognitive decline. *The Lancet Neurology*, 19 (3), pp. 271-278.
- 数井裕光・綿森淑子・本多留実・森悦朗（2002）．日本版リバーミード行動記憶検査．千葉テストセンター．
- Liew, T. M. (2020). Trajectories of subjective cognitive decline, and the risk of mild cognitive impairment and dementia. *Alzheimer's Research & Therapy*, 12 (1), 135.
- 前田紗彩・成木迅・八田武俊・八田武志・岩原昭彦（2026）．「主観的認知機能低下」尺度の開発．*老年精神医学雑誌*, 37 (3), pp. 287-296.
- Marchant, N. L., Poisnel, G., Arenaza-Urquijo, E. M., Vreeling, F. W., Tuijt, R., van der Linden, M., et al. (2023). Impact of mindfulness-based and health self-management interventions on mindfulness, self-compassion, and physical activity in older adults with subjective cognitive decline: A secondary analysis of the SCD-Well randomized controlled trial. *Alzheimer's & Dementia: Translational Research & Clinical Interventions*, 9 (1), e12434.
- 杉下守弘（2001）．WMS-R ウェクスラー記憶検査改訂版．日本文化科学社．
- Morrison, C. & Oliver, M. D. (2023). Subjective cognitive decline is associated with lower baseline cognition and increased rate of cognitive decline. *The Journals of Gerontology: Series B*, 78 (4), pp. 573-584.
- Wang, S., Rao, J., Yue, Y., Xue, C., Hu, G., Qi, W., Ma, W., Ge, H., Zhang, F., Zhang, X., & Chen, J. (2021). Altered frequency-dependent brain activation and white matter integrity associated with cognition in characterizing preclinical Alzheimer's disease stages. *Frontiers in Human Neuroscience*,

付録：SCD-J 開発時における各得点の平均値と標準偏差

	人数	SCD-J①(最大 28 点)	SCD-J②(最大 28 点)	SCD-J 合計(最大 56 点)
全体	650	17.95 ± 3.89	14.22 ± 3.46	32.17 ± 6.81
男性	273	17.57 ± 3.83	14.18 ± 3.36	31.75 ± 6.70
女性	375	18.20 ± 3.88	14.22 ± 3.48	32.40 ± 6.82
前期高齢者	329	17.66 ± 3.94	14.01 ± 3.38	31.66 ± 6.77
男性	145	17.29 ± 3.92	14.01 ± 3.21	31.30 ± 6.60
女性	184	17.95 ± 3.95	14.01 ± 3.51	31.95 ± 6.91
後期高齢者	320	18.23 ± 3.78	14.41 ± 3.48	32.72 ± 6.82
男性	128	17.89 ± 3.71	14.38 ± 3.53	32.27 ± 6.79
女性	190	18.45 ± 3.81	14.43 ± 3.45	32.88 ± 6.71

注：記述統計は本研究の相関分析対象とは異なる SCD-J 開発時サンプルである。表記の人数は、分析対象者から欠損値を抜いた数を記載している。

15, 625232.

Wang, X. T., Wang, Z. T., Hu, H. Y., Qu, Y., Wang, M., Shen, X. N., Xu, W., Dong, Q., Tan, L., & Yu, J. T. (2021). Association of subjective cognitive decline with risk of cognitive impairment and dementia: A systematic review and meta-analysis of prospective longitudinal studies. *The Journal of Prevention of Alzheimer's Disease*, 8 (3), pp. 277-285.

Webster-Cordero, F. & Giménez-Llort, L. (2022). The challenge of subjective cognitive complaints and executive functions in middle-aged adults as a preclinical stage of dementia: A systematic review. *Geriatrics (Switzerland)*, 7 (2), 30.

Zhou, C., Jeryous Fares, B., Thériault, K., Trinh, B., Joseph, M., Jauhal, T., Sheppard, C., Labelle, P. R., Krishnan, A., Rabin, L., & Taler, V. (2025). Subjective cognitive decline and objective cognitive performance in older adults: A systematic review of longitudinal and cross-sectional studies. *Journal of Neuropsychology*, 19, pp. 98-114.

受稿日 : 2026 年 5 月 15 日

受理日 : 2026 年 6 月 22 日

発行日 : 2026 年 6 月 30 日

Copyright © 2026 Society for Human Environmental Studies



This article is licensed under a Creative Commons [Attribution-Non-Commercial-NoDerivatives 4.0 International] license.



<https://doi.org/10.4189/shes.24.87>

